

# 定年後の再就職成功のカギは 定年前から始める就活準備と 現役時代の人脈づくり

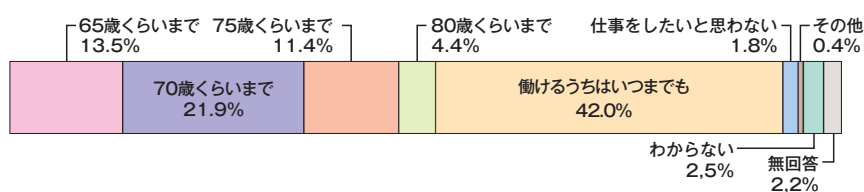
このコーナーでは全国で活躍している金融広報アドバイザーによる誌上セミナーを行います。今回のテーマは「定年後の再就職」です。古屋寿隆アドバイザーに、シニアの再就職の現状を踏まえて、再就職成功のカギとなる「定年前からの就活準備」と「人脈づくり」のノウハウを中心に、収入と年金の関係などもうかがいました。さらに、2020年の通常国会に提出が予定されている高齢者雇用安定法（以下、高齢法）改正案の考察から、シニアの再就職に関する今後の展望もお伝えします。

第21回

講師：古屋寿隆

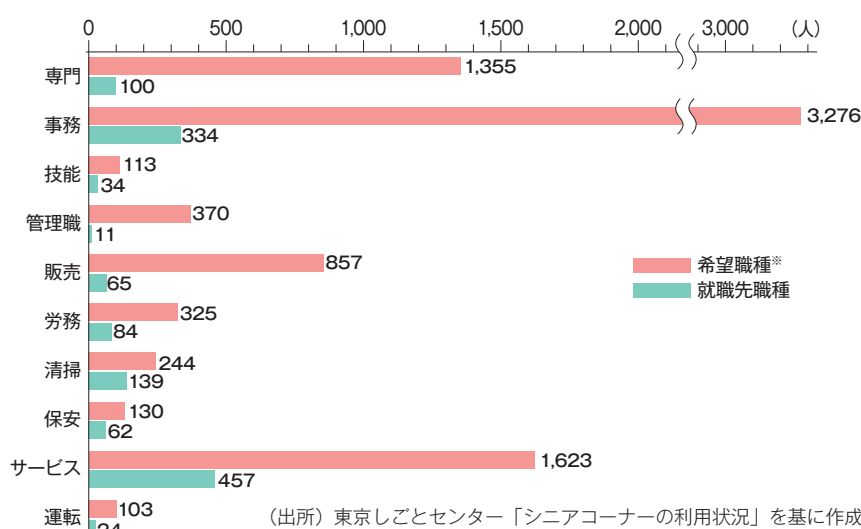
山梨県金融広報アドバイザー

【図表1】あなたは、何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいですか



（出所）内閣府「平成30年版高齢社会白書」を基に作成  
[https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/pdf/1s2s\\_01\\_02.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/pdf/1s2s_01_02.pdf)

【図表2】シニアの希望職種と就職先職種



（出所）東京しごとセンター「シニアコーナーの利用状況」を基に作成  
<https://www.tokyoshigoto.jp/jisseki/#senior>  
※シニアコーナーの新規利用者（2018年4月1日～2019年3月31日）

## シニアの再就職における 現状とは？

人生100年時代といわれる昨今、定年後も長く働きたいという人は増え続けています。内閣府の調査によると、仕事をしている60歳以上の人の約4割が「働けるうちはいつまでも」と考えており、「70歳くらいまでもしくはそれ以上まで」就業を希望する人を合わせると約8割の方が労働意欲を示しています【図表

1】。働き続けることで収入が得られる金銭的なメリットはもとより、元気なうちには、定年後も充実した生活を送りたいという欲求も労働意欲の大きな原動力になっているように思われます。

一方、企業側の受け入れ態勢についても、2013年に改正高齢法が施行されるようですが、実際に、その企業で定年を迎えた方が継続雇用となるケースが多いようです。また、厚生労働省の

2019年度「高齢者の雇用状況」を見ますと、66歳以上が働ける制度のある企業は約3割にとどまっているなど、60歳以上を求人する企業は決して多いとはいえません。

さらに、シニアが希望する職種と就職しやすい職種とのミスマッチもあります。東京しごとセンターが調査したシニアの就職状況を見ますと、専門職、事務職、管理職といったデスクワーク系の職種を希望する人が多いことが分かります【図表2】。

しかし、デスクワーク系の職種で就職できた人数は、希望者に対して非常に少ない結果となっています。例えば事務職ですと、希望者3,276人に対して就職者は334人となり、約9.8倍というかなり高い就職倍率です。一方で、人手不足が深刻なサービス業や体力を使う清掃や保安では、比較的就職倍率が高くありません。例えば清掃は、希望者244人に対して就職者139人となり、就職倍率は約1.7倍です。職種を選ばなければ就職できる可能性は高くなりますが、長年の職務経験やキャリアのあるシニアの中には、職種へのこだわりが強く、就職にこぎ着けない方もいらっしゃるというのが現状のようです。

## 希望の再就職をかなえるには 定年前からの就活準備が重要

ひと昔前であれば、定年後はゆっくり

暮らす、あるいは定年後も働くことを希望する人でも、「失業等給付をもらいながらゆつくり再就職先を探す」という方が多かったものです。しかし、多くのシニアの方が就職を希望する今、仕事から離れるプランが長くなれば、企業が求める「即戦力かつできるだけ長く働ける人材」から遠ざかってしまい、再就職への道も険しくなります。ですから、「定年前から就活準備を行うこと」が、定年退職後すぐに希望する再就職をかなえる重要なポイントであると考えます。就活準備は、定年が見えてくる50歳過ぎあたりから始めるとよいでしょう。

準備は、「定年後のライフプランの作成」、「自分の市場価値の把握」、「シニアの就職に関する情報収集」を基本にするとよいかと思えます。

まずは、「定年後のライフプランの作成」です。老後に送りたい生活スタイル、退職金額や年金額、年金以外の収入金額、借入金額、定年後に就きたい仕事内容と希望年収などを書き出してみることをお勧めします。一連の内容を考えることで、自分が望む定年後の姿がある程度想定でき、それまでに自分がやるべきことが明確になってくるはずですが、セカンドキャリアに向けたセミナーを行う企業も多くありますので、そこに参加すれば自分の次のステージについて真剣に考えるよい機会になるかと思えます。

## 自分の市場価値を知って 希望の再就職を現実化

定年前の就活準備として行いたい「自分の市場価値の把握」。再就職市場における自分の価値がどれくらいか知ることは、希望の再就職状況を現実的にとらえるための大切なプロセスになります。その方法は、実際の市場で反応を見ることが一番よいでしょう。例えば、ハローワークなどのセミナーや説明会に参加する、実際に職を探してみるなどが考えられます。具体的な行動をすることで、厳しい現実と直面しプライドを傷つけられることもあるかもしれませんが、しかしそれは、希望と現実のギャップだと認識し、希望を実現するための原動力にすることが大切なのです。

自分の市場価値を、作成した定年後のライフプランとマッチングさせることも、ぜひ行ってください。もし自分の描くライフプランに比して足りないものがあれば、資格の取得に励むなど、補う努力をすればよいのです。

## シニアにお勧めの求人窓口で シニアの就職情報をキャッチ

定年前の就活準備でもっとも重要なプロセスは「シニアの就職に関する情報収集」と考えています。先に述べたようにシニアの求人状況は必ずしも甘いものではなく、それを定年前に肌で感じるこ

で、現実的な再就職プランが考えられ、その対策が行えるからです。情報をキャッチする場合は、やはり求人窓口が最適ですので、シニアが利用しやすい求人窓口やサービスをご紹介します。

### ■公共職業安定所（以下、ハローワーク）

厚生労働省が設置する行政機関。全国の求人情報が集められ、最新の雇用状況を収集するのに欠かせない存在です。2018年より全国110カ所のハローワークに「生涯現役支援窓口」が設置され、再就職をめざす55歳以上を対象に、就職相談やシニア採用に意欲的な企業の紹介、各種ガイダンスなどが実施されています。

### ■高齢者退職予定者キャリア人材バンク

産業雇用安定センターが2016年より実施。高齢者雇用に意欲的な企業を紹介するマッチングサービスで、専門スタッフによるマンツーマンの就活支援を無料で受けられます。登録には、事業主経由で行うものと個人で行うものがあり、前者の対象は雇用契約期間の満了後に再就職を希望する60歳以上の在職者、後者は60歳以上65歳以下の在職者もしくは1年以内の離職者となります。

### ■自治体などのシニア向け就業支援

各地の自治体では、独自にシニアの就業支援に取り組んでいます。セミナーや合同説明会の開催、地域密着型の求人情

報の紹介、就活テクニックのアドバイス、専門家によるカウンセリングなどさまざまなサービスを行っています。例えば、東京都が都民の雇用や就業を支援するために設置した「東京しごとセンター」は、東京しごと財団、民間の就職支援会社、ハローワークが一体となってサービスを提供します。シニアコーナーでは55歳以上の方を対象とした求人情報が検索できます。都内の仕事を探しているなら、都民以外でも利用可能です。

こうしたサービス内容は自治体によって異なりますので、問い合わせてみましょう。

### ■転職サイトや転職エージェント

最近では、シニアに特化した就職情報の提供を行うサービスが増えてきています。求人情報のみならず、履歴書の書き方や、就活体験談なども参考になります。

## 現役時代に人脈をつくり シニア就職の強力な武器に

再雇用制度がなく定年が55歳だった時代には、勤務先からの紹介や縁故などで定年後の再就職先を探す人が多くいました。企業側にとっては「知らない人を探用するよりリスクが低く、採用コストが削減できる」、採用される側は「事前に詳細情報を得られるので納得して選べる」という双方にとってのメリットがあり、今でも再就職探しのもっとも多い

【図表3】 転職・再就職の際に利用した機関・サービス（複数回答）

	ハローワーク	民間就職 支援サービス	求人情報誌、 新聞、 チラシ等	前の会社の 斡旋	縁故	その他	無回答
45～59歳	30.2%	8.3%	36.3%	3.7%	36.8%	6.4%	2.4%
60～64歳	26.7%	5.1%	29.0%	7.0%	37.3%	5.8%	4.8%
65～69歳	20.6%	3.2%	24.0%	10.3%	43.3%	7.3%	6.1%
70歳以上	16.2%	3.1%	22.8%	13.2%	45.2%	5.5%	4.8%

(出所)独立行政法人 労働政策研究・研修機構「中高年齢者の転職・再就職調査」を基に作成  
<https://www.jil.go.jp/institute/research/2016/documents/149.pdf>

方法となっております【図表3】。現役時代の人脈づくりはシニアの再就職探しの強力な武器になりますので、意識して動くべきです。それは単に、知り合いがたくさんいればよいということではありません。再就職のための人脈づくりのポイントは、現役のうち自分の仕事の能力を評価してくれる人との関係を、社内外で築いておくということです。つまり、

今の仕事を一生懸命やって職場や取引先などにふだんからアピールすることで、「まだ十分仕事ができる能力を持っている」と思わせることが、再就職につながる人脈となるのです。

もちろん、仕事以外でつながった縁も大切な人脈となります。地域のコミュニティや勉強会、趣味の集まりなどへ積極的に参加することで、仕事関係では出会えないような方と知り合い、再就職につながった方も少なくありません。

### 年金と収入、定年と再就職はどちらを優先すべき？

ここで、定年後の再就職についてよく受ける相談を二つご紹介したいと思います。

①在職老齢年金が少なくなるので、あまり年収の低い就職先がよい？

在職老齢年金とは、60歳以降も厚生年金に加入しながら、特別支給の老齢厚生年金を受け取る場合の制度で、給与と年金を合算した金額が一定額を超えると、年金が減額される場合があります。在職老齢年金による年金受給額を気にして、年収の低い就職先を選んだり、就業時間や勤務日数を減らす人もいますが、私は働けるだけ働いて、収入を増やすことに目を向けた方がよいと考えます。たとえ年金が減らされたとしても、手取り額が増えればよいわけですし、長く働くことでその分、生涯収入がプラスになります。厚生年金についても、長く加入していればその分、

将来受け取る年金額が増えるわけです。

②定年前に再就職先が見つかり、すぐきてほしいと言われた。定年まで待った方がよい？

自分が希望する仕事ができる再就職先であれば、たとえ定年前であっても、思い切つて再就職を選んだ方がよいと私は思います。企業側からすると、少しでも早くから即戦力として、なるべく長く働いてもらいたいというのが本音でしょう。定年まで待てば、それだけ年齢も重なり、市場での需要が少なくなってしまう可能性もあります。また、シニアの再就職を受け入れる企業は、定年制を導入していないなどのケースも多いようです。再就職後の収入が下がったとしても、やりがいのある仕事を長く続けることで生涯収入も多くなり、充実した日々を過ごせるのではないのでしょうか。目先の損得にとらわれず、長い目で見てよいと思える選択をすることをお勧めします。

### 高齢法改正の動きと

#### 定年後の再就職環境の展望

ここ数年、日本では、有効求人倍率が上昇するなど雇用環境がよくなり、働

き手の売り手市場となっています。こうした中、シニアの雇用環境についても、2020年の通常国会に提出が予定されている高齢法改正案では、雇用の上限を70歳に引き上げることなどが企業の努力義務として盛り込まれています。急速に進む高齢化に伴い、シニアをめぐる雇用環境や再就職環境は、今後ともめぐるしく変化することが予想されます。長く働き続けるためには、こうした時代の変化や情報にアンテナを高く張りつつ、健康には十分留意し、元気でいることを目標にしていきたいと考えています。

地方銀行、銀行協会勤務後、現在は甲府家庭裁判所に、夫婦関係調整事件や遺産相続事件を、参与員として成年後見事務の監督を担当。また、金融広報アドバイザーとして山梨県内の高校・短大等で巣立ち教室や、一般社会人・中高齢者を対象に金融リテラシー講座を担当し、再就職等のアドバイスも行う。高齢者向けの特殊詐欺、悪質商法などの消費者トラブル対策の啓発にも注力している。



古屋寿隆（ふるや・としたか）

- の
- 回
- 今
- ま

★シニアの就職環境は職種によってばらつきがある

★成功のカギは定年前からの就活準備と人脈づくり

★再就職は目先の損得にとらわれず長い目で選択すべき